

## <高津区にあった軍事施設、軍需工場>

### ■ 1

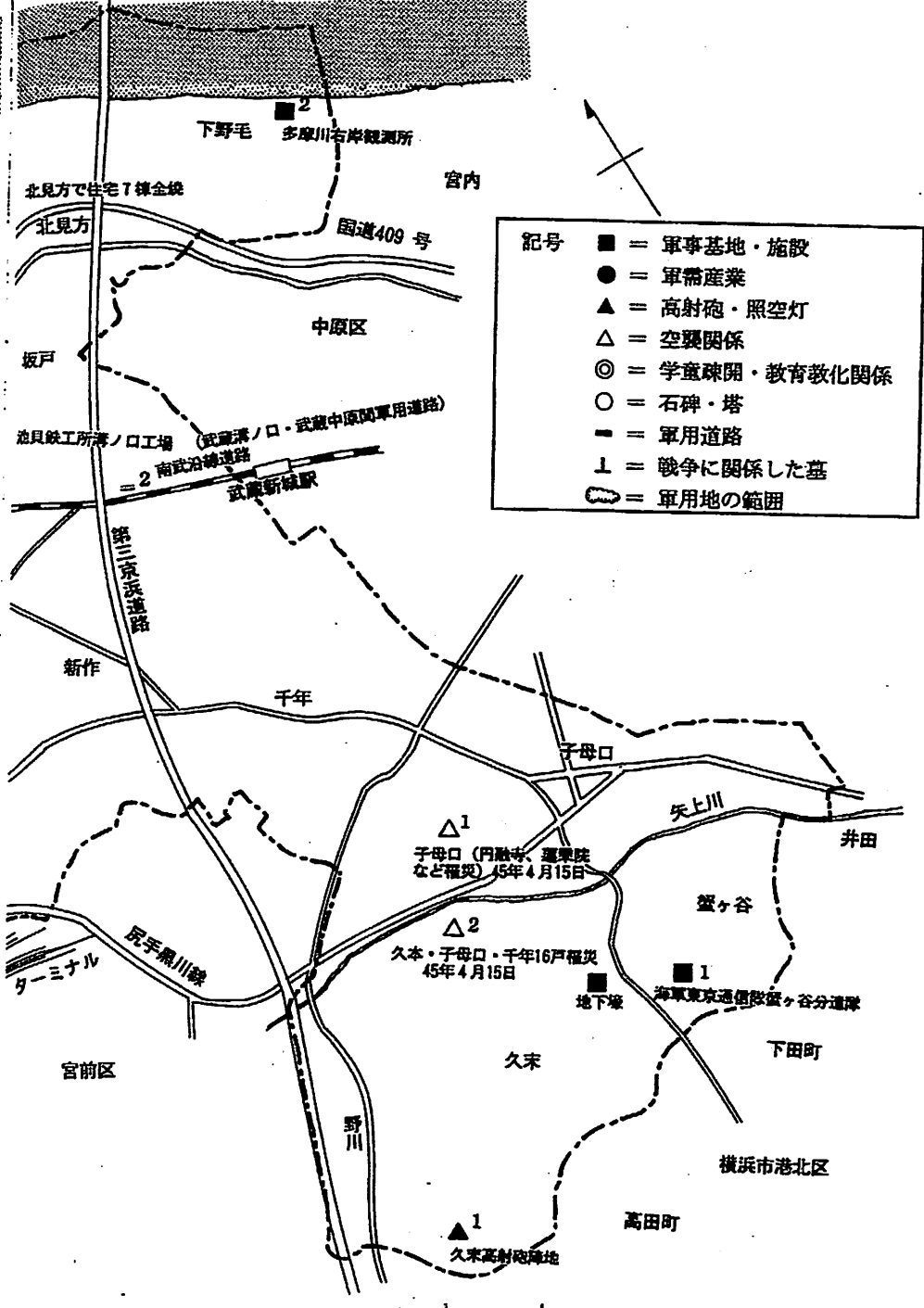
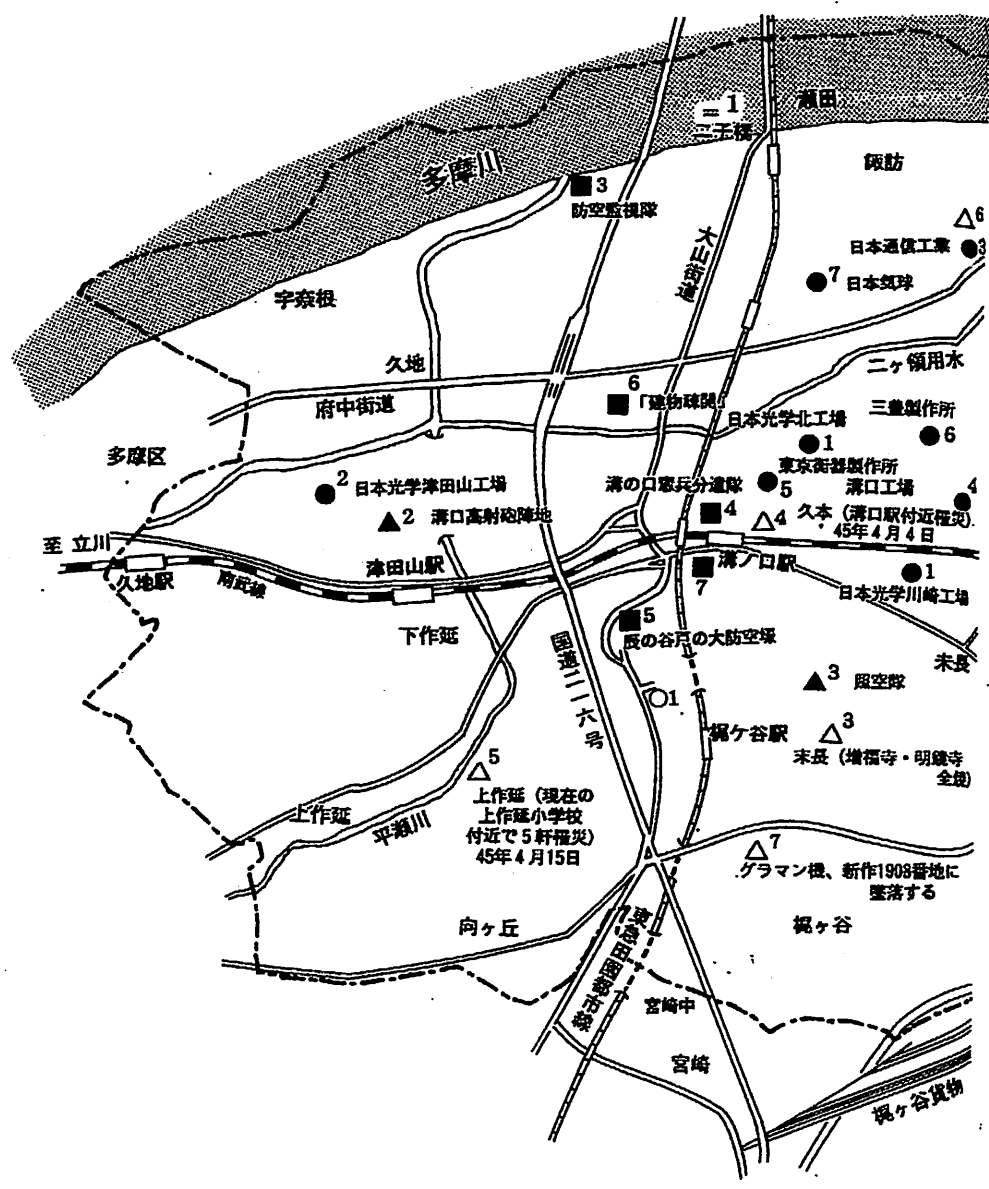
#### 海軍東京通信隊蟹ヶ谷分遣隊

武蔵新城駅から2.5kmの蟹ヶ谷の台地の上に、運輸省の通信塔があります。今は航空管制用に使われていますが、ここには太平洋戦争時に「ニイタカヤマノボレ 1208」の報告を受けた通信隊がありました。ここには地下壕も作られ、200人の軍人と共に、米英の捕虜も無線通信・無線傍受に従事していました。また、この地下壕は地下ケーブルで日吉の「旧海軍連合艦隊司令部」の地下壕と結ばれていました。

### ● 1

#### 日本光学川崎工場

1938年久本に日本光学の川崎工場が建設されました。ここでは戦闘機に使う射撃照準機、爆撃機に使う爆撃照準機などがつくられていました。また付近の日本通信工業では軍用の無線機などが、池貝鉄工所でも兵器などが生産されていました。



- 記号
- = 軍事基地・施設
  - = 軍需産業
  - ▲ = 高射砲・照空灯
  - △ = 空襲関係
  - ◎ = 学童疎開・教育教化関係
  - = 石碑・塔
  - = 軍用道路
  - ⊥ = 戦争に関与した基
  - ⬭ = 軍用地の範囲

## <宮前区にあった軍事施設>

宮前区宮崎から高津区梶ヶ谷にかけての丘陵地に陸軍東部62部隊が1942年から終戦までありました。ここは召集兵を短期間訓練して外地へ送り出す施設でした。部隊の軍用地に隣接して、高津区向ヶ丘・宮前区中央南西部から横浜市青葉区の美しが丘・新石川にかけて広大な演習場もありました。1944年頃には、銃もなく射撃訓練すらできずに入隊4日目で戦場へ出発していくような状態でした。

戦後軍用地は払い下げられ、東急が買収し田園都市線を開通させて開発が進んだのでした。いまでも丘陵地などに陸軍の軍用地をしめす標識がのこっているところがあります。

### ■ 1

#### 部隊本部

現在の宮崎中学校の体育館のところに部隊本部がありました。戦後も一部中学校の校舎として使われていました。現在は植木、庭石、灯籠などが残っています。また、梶が谷4丁目には軍馬の飼われていた建物が今も残っているようです。

### ■ 3

軍用地のために32軒の農家が馬綱に強制移転させられました。

### ■ 4

#### 北廠舎

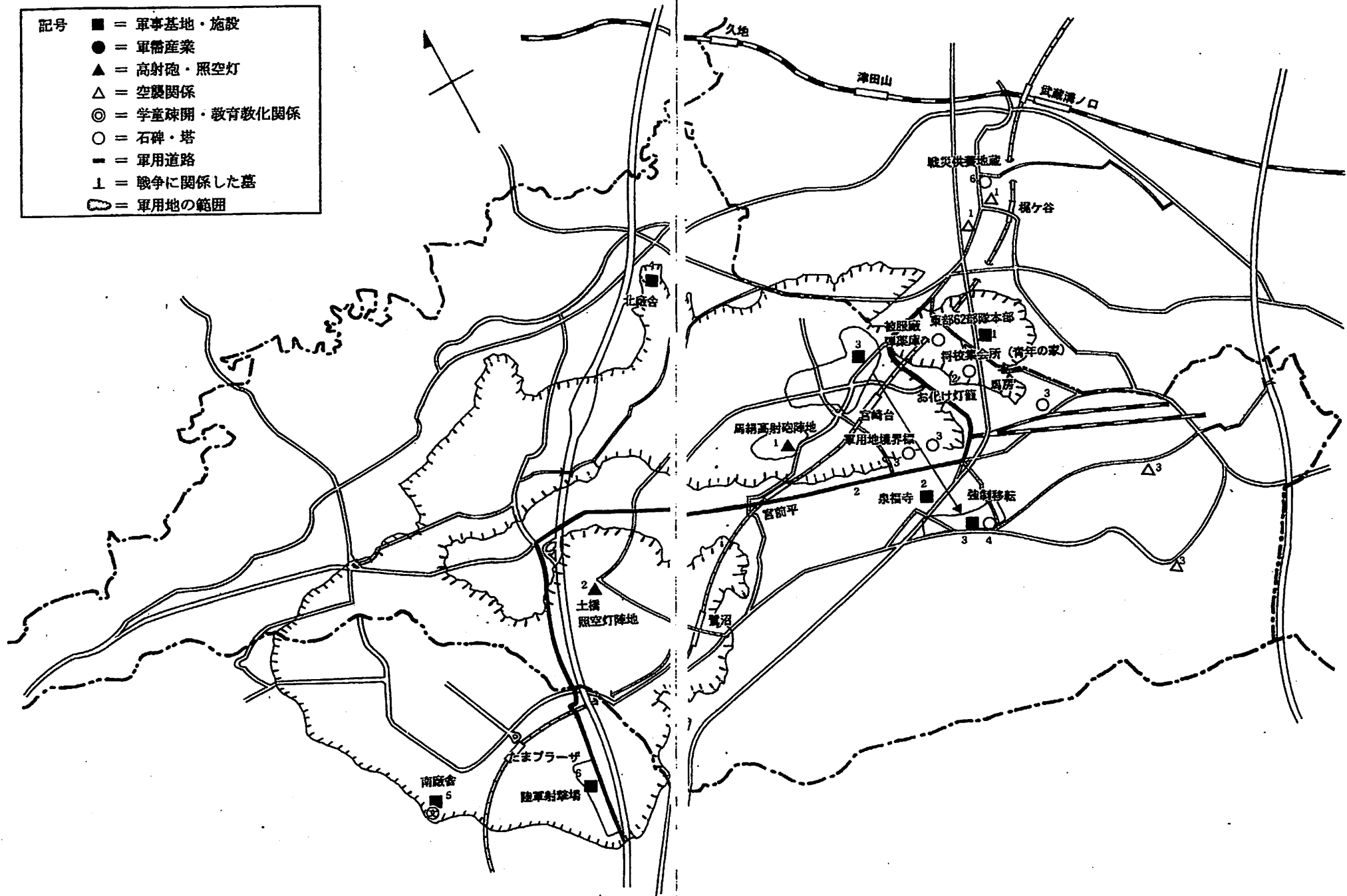
演習場の北端に、演習にきた部隊の宿泊できる兵舎が7棟ありました。戦後は引き揚げ者の住居などで使用された後、向ヶ丘中学校の校舎として14年間使用されました。現在も平6丁目に兵舎だった建物が残っているようです。

太線 2

**軍用道路**

馬絹から清水台への幅 11メートルの道路は 1940 年に軍用道路としてつくられました。(今の尻手黒川線のはじまり)

- 記号
- = 軍事基地・施設
  - = 軍需産業
  - ▲ = 高射砲・照空灯
  - △ = 空襲関係
  - ◎ = 学童疎開・教育教化関係
  - = 石碑・塔
  - = 軍用道路
  - ⊥ = 戦争に関係した墓
  - (with dashed border) = 軍用地の範囲



## <多摩区の軍事施設>

### ■ 1

#### 登戸研究所

### ▲ 0

#### 探照灯基地

生田5丁目（生田東高校のすぐそばの生田小学校のあたり）には、高射第1師団第112連隊第3大隊の探照灯基地（夜間敵機をあかりで探す）がありました。

## <麻生区の軍事施設>

### ■ 1

#### レーダー基地

現高石4、5、6丁目にレーダー基地（電波警戒機基地）がありました。

### ■ 2

#### 戦車壕

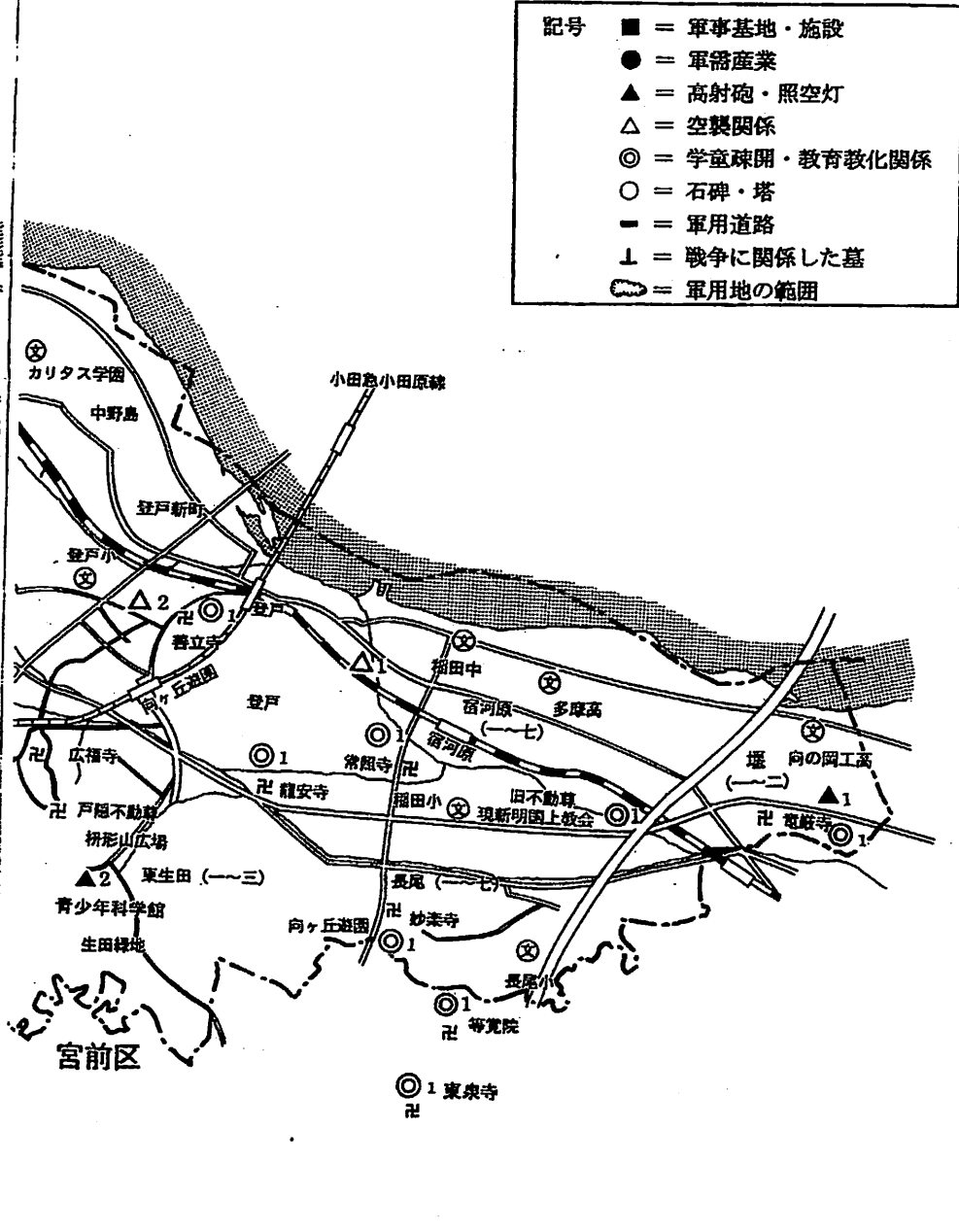
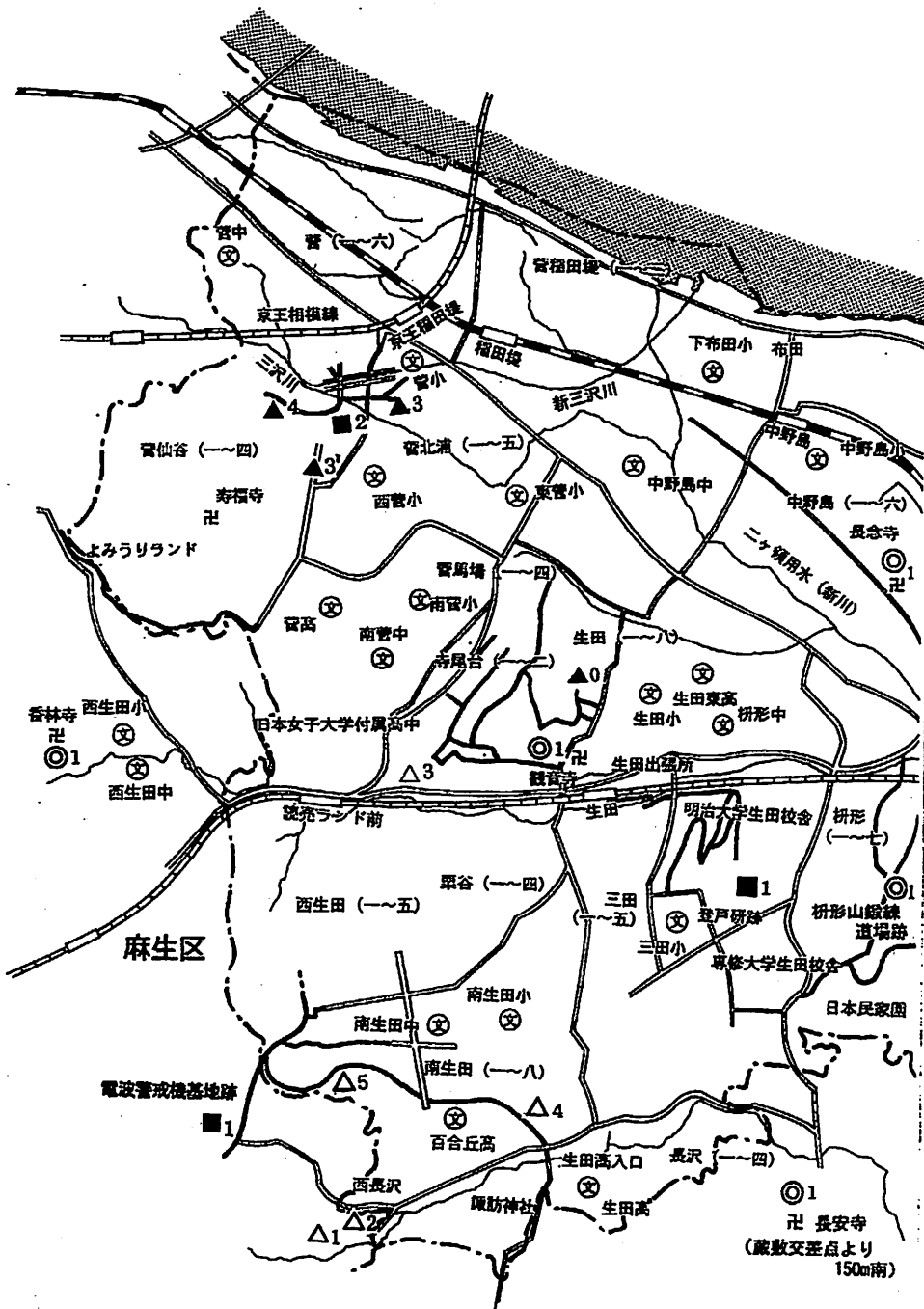
本土決戦に備えて、米軍を阻止する戦力を温存する目的と称して、栗木・片平・五力田・古沢・王禅寺などに戦車壕が作られました。終戦直前だったため、実際には資源が不足していて壕すら満足にできなかったようです。

## ＜麻生区、多摩区への学童疎開＞

### ◎1 (多摩区、麻生区)

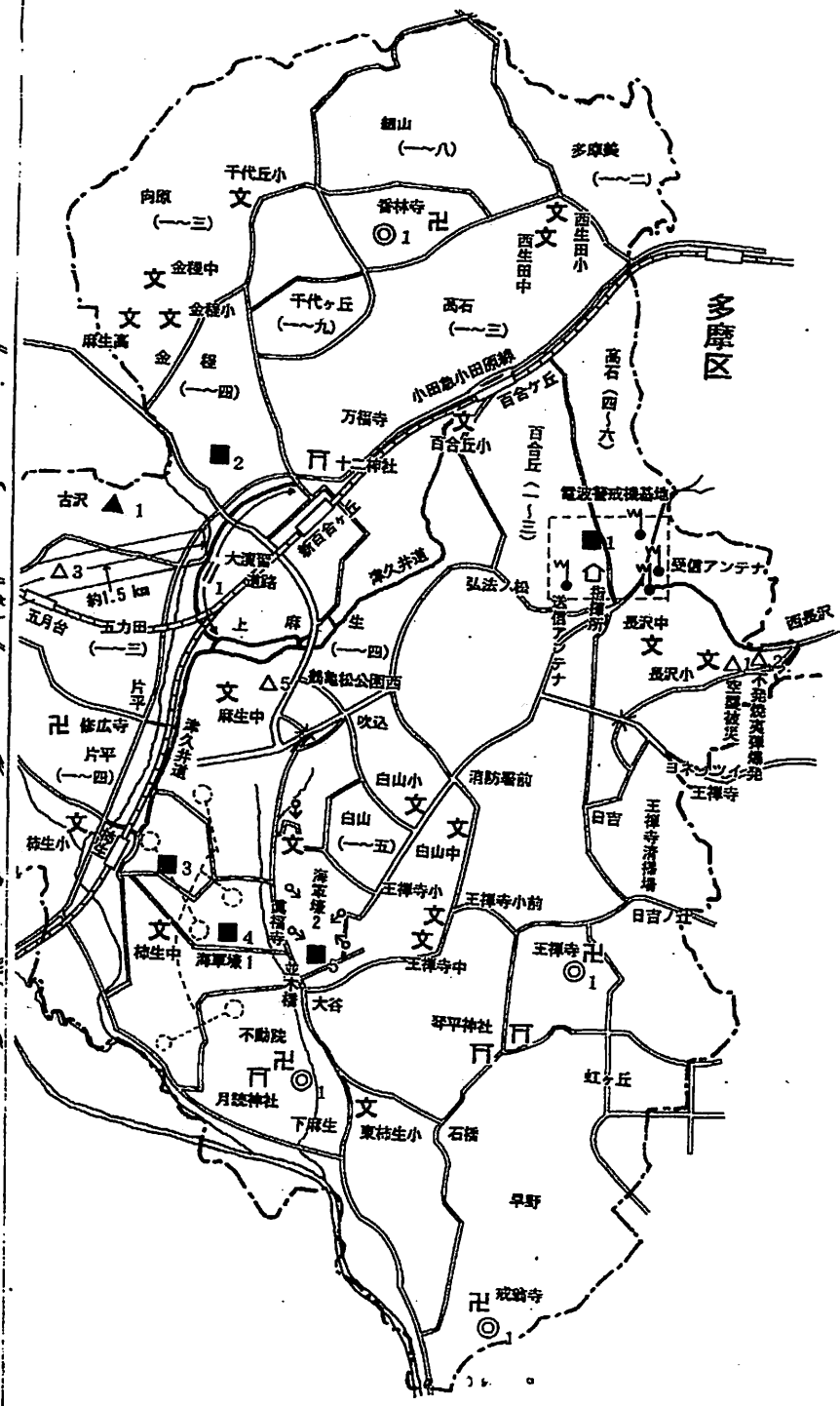
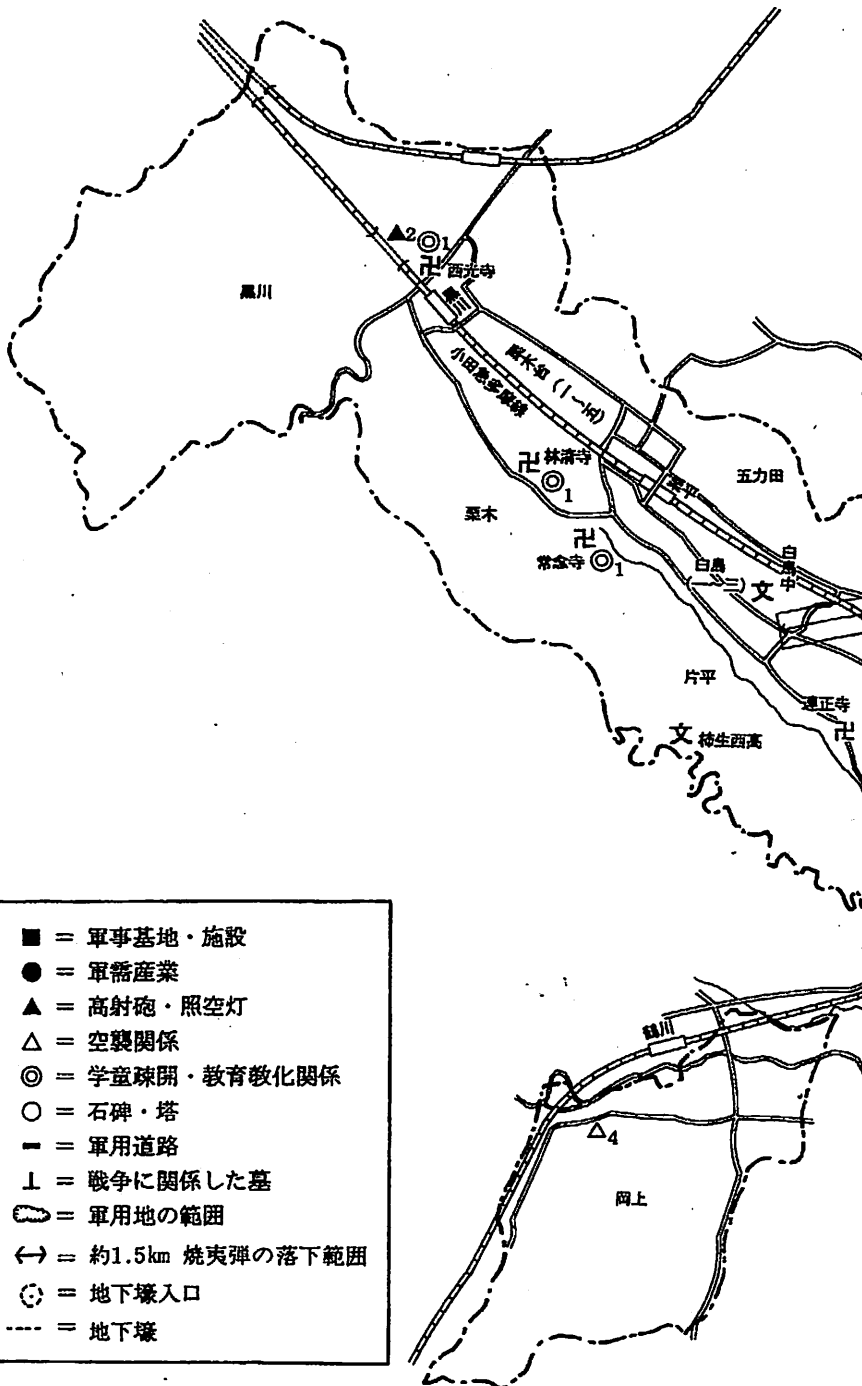
麻生区の常念寺・不動院・王禅寺・香林寺、多摩区の観音寺（生田駅前のもすバーガーの上）・善立寺・長念寺・常照寺などへは、渡田・桜本などの川崎南部からの学童疎開（小学校3～6年生が空襲を避けるために親と離れて避難する）が多く来ていました。（2つの区だけでも800人以上）

川崎大空襲の日、赤く燃え上がる夜空を「空腹とのみ・しらみ」に耐えながら、大勢の子供たちが見上げていたのです。



- 記号
- = 軍事基地・施設
  - = 軍需産業
  - ▲ = 高射砲・照空灯
  - △ = 空襲関係
  - ◎ = 学童疎開・教育教化関係
  - = 石碑・塔
  - = 軍用道路
  - ↓ = 戦争に関した墓
  - ⊗ = 軍用地の範囲





- |    |                       |
|----|-----------------------|
| 記号 | ■ = 軍事基地・施設           |
|    | ● = 軍需産業              |
|    | ▲ = 高射砲・照空灯           |
|    | △ = 空襲関係              |
|    | ◎ = 学童疎開・教育教化関係       |
|    | ○ = 石碑・塔              |
|    | — = 軍用道路              |
|    | ⊥ = 戦争に関係した墓          |
|    | ○ (with dot) = 軍用地の範囲 |
|    | ↔ = 約1.5km 焼夷弾の落下範囲   |
|    | ⊙ = 地下壕入口             |
|    | - - - = 地下壕           |

## 参考資料

- 「陸軍登戸研究所の真実」伴 繁雄 芙蓉書房出版  
「謀略戦～ドキュメント陸軍登戸研究所」斎藤 充功 時事通信社  
「高校生が追う 陸軍登戸研究所」法政二高平和研究会ほか 教育資料出版会  
「私の街から戦争が見えた」川崎市中原平和教育学級編 教育資料出版会  
「平和ウォーキングマップ・川崎」平和マップ実行委員会 教育資料出版会  
「多摩区OLD&TODAY」多摩区地域史編集委員会 多摩区役所  
「川崎空襲戦災の記録」川崎市総務局文書課 川崎市  
「神奈川県戦争遺跡」神奈川県歴史教育者協議会 大月書店  
「近代神奈川の史話31選」神奈川県歴史教育者協議会 同左

今回の展示などにご意見や参考資料などがありましたら、  
学校までお寄せ下さい

### 陸軍登戸研究所関係のHP

<http://village.infoweb.ne.jp/~fwhj5337/9k-index.htm>

### 石井誠一の「平和と戦争を考える本の紹介」のHP

<http://ishiimac.tripod.co.jp>